

第44回札幌くらぶサロン
ヴィオラの響き 端正な中に豊かな。パトス

令和8年が明けました。本会の新年最初の活動である第44回「札幌くらぶサロン」は、1月12日(月)豊平館で開催されました。

第一部 札幌定期演奏会
 プレトーク

札幌くらぶ顧問で作曲家の木幸三さんから、令和8年度の演奏会の曲について紹介がありました。音源を使いながらの話は、いつもながらユーモアを交えた軽妙な語り口で、聞く者を引きつけて離しません。豊平館

のスピーカーの不調により、八木さんの意図が十分に伝わらなかったことは残念でしたが、オーケストラの両翼配置(対向配置)も言い、首席指揮者のエリアスがこれを採用しています)についての話など、学ぶところの多い内容でした。

第二部 ニューイヤ
 サロンコンサート

本日のコンサートは札幌ヴィオラ奏者(副首席代行)である原香奈恵さんの演奏です。ピアノ伴奏は前回に引き続き城真由さん。二人は

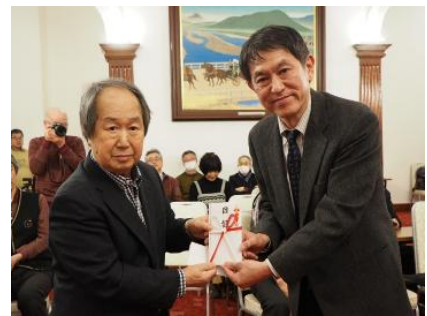
響に入団。昨年2月には新進演奏家育成プロジェクト・オーケストラシリーズ第84回(札幌)に出演し、札幌の伴奏でバルトークの協奏曲を演奏。Yoliteの札幌プレイヤーズトックにも何度か出演するなど、札幌の若手奏者として多方面で活躍しています。会報第107号にインタビュー記事があるので、ぜひそちらもご覧ください。

最初の演奏は、有名な映画音楽から5曲。サウンドオブミュージックやゴッドファーザーなど、聞き覚えのある旋律が次々と奏でられました。陽気で軽やかな曲が続き、会場は明るい雰囲気になりました。

次にはチェコの作曲家ヤン・ヴァーツラフ・カリヴォダの6つのノクターンより1、2、4番。ヴィオラのふくよかな響きと、ロマン派ならではの旋律の美しさが印象的でした。

最後に演奏されたのは、セザール・フランク作曲ヴァイオリンソナタのヴィオラ版。原さんの思い出の曲だということで、期待が高まりました。強さと優しき、憂いと喜び、憧れと拒絶といった相反するものが盛り込ま

楽譜支援金の目録贈呈



第三部 ニューイヤ
 交流パーティー
 パーティーに先立ち、楽譜支援金の贈呈式がありました。札幌くらぶ会長代行の武藤義典副会長から、札幌専務理事の荒木太郎氏へ50万円の目録が渡されました。今回で20回目、支援総額が1千万円に達した記念すべき夜となりました。荒木氏から謝辞がありました。

新年らしくシャンパンでの乾杯からパーティーは始まりました。和やかな雰囲気の中で、ビールやワインを飲みながら、音楽談義に花を咲かせました。新年恒例のじゃんけん大会では、勝者にサイン入りの札幌カレンダーが送られました。原さんは精力的に各テーブルを回り、参加者と交流を深めていました。

会員／多田真一



ヴィオラ 原香奈恵さん ピアノ 城真由さん

大学の同期で、二人は同じ年だそう
 原さんは、札幌市出身で、HBCジュニアオーケストラにも在籍してました。東京藝大を卒業後、桐朋オーケストラアカデミーなどを経て、2024年札幌

今回の選曲は、技巧的なものというより、歌心が溢れるものが多かったように思います。張りのある高音と、渋く豊かな低音の響きが会場を満たし、ヴィオラの素晴らしさを存分に味わうことができました。



サイン入りの札幌カレンダーをゲット

3月〜5月 定期演奏会 hitaruシリーズ 名曲コンサート 演奏会を楽しく聴くために

八木幸三（札幌くらぶ顧問）

hitaruシリーズ

定期演奏会第24回

3月19日（木）19：00

指揮 大植英次

トランペット 児玉隼人

■小倉朗 管弦楽のための舞踊組曲

初期のNHKテレビ「事件記者」を存じだろうか。このテーマ音楽を作曲したのが小倉朗。彼は1949年、NHK委嘱で「序曲」を作曲し、同年作曲の「交響曲へ長調」は翌年NHKの懸賞で2位となった。その後NHK委嘱によるオペラ「寝太郎」で第12回芸術祭奨励賞を受賞している。

この曲は1953年に作曲した管弦楽曲で、西欧の古典一辺倒に限界を感じた小倉が、新たに接したシェーンベルクやバルトークの音楽に影響を受けた作品。リズム的なアレグロと抒情的なアンダンテが交差する第1楽章から生命力を感じさせる楽想が展開される。

■ハイドン

トランペット協奏曲

作曲家唯一のトランペット協奏曲であり、古今のトランペット作品中、最高傑作とされているこの曲は、ウィーン宮廷楽団のトランペット奏者ヴァイディンガーのために書かれた。

この当時は楽器の管側に常時閉鍵を施し、これらを開くことで音程を変えていた。つまり木管楽器の仕組みである。最近、古楽オーケストラでこの楽器を見かけることもあるが、かなり難しい技術によりこの難曲を演奏していたことに驚かされる。俊英、児玉隼人が現代のトランペットからどんな典雅な音色を聴かせるのか大注目だ。

■バルトーク

管弦楽のための協奏曲

経済的に恵まれず、困窮した中で生涯を終えた作曲家は意外に多い。ハンガリーの民族音楽などを素材に多くの作品を残し、第2次世界大戦の最中、母国からアメリカへ亡命したバルトークもその一人。健康も損ねて

いた作曲家を憂慮したボストン交響楽団音楽監督クーゼヴィツキが自らの財団より彼に委嘱したのがこの作品だ。委嘱料千ドルは当時としては破格で、この委嘱によりバルトークは創作意欲を取り戻した。初演では、「20世紀に入つての最高のオーケストラ作品」と絶賛され、翌年作曲家自らが改訂も加えている。



大植 英次 ©飯島隆



児玉 隼人

©Yuji Ueno

第676回定期演奏会

4月18日（土）17：00

19日（日）13：00

指揮 広上淳一

チェロ 山崎伸子

■チャイコフスキー

幻想序曲「ハムレット」

チャイコフスキーはグリーグを大変尊敬していた。そのためグリーグがノルウェーの作曲家であることから、この国に繋がりのある「ハムレット」の幻想曲風な自由な形式による演奏会用序曲が生まれた。「ロメオとジュリエット」、「テンペスト」の両幻想序曲では、劇的なものと絵画的なもの2つの要素が巧妙に平衡を保っているが、この曲はほほ情緒的、心理的なもので具象的なものは少ない。全体的に起伏が多く、何度もクライマックスの頂点を築くが、その中で独奏オーボエによる哀愁を帯びたオフェリアの主題が印象的である。

■ロココの主題による変奏曲

モスクワ音楽院教授でチェリストのフィッツェンハーゲンの助言を受けながらチャイコフスキーは、敬愛するモーツァルト

広上淳一



©Masaaki Tomitori

への憧れを込めて、ロココ風様式によるオリジナル主題を7つの変奏曲でまとめ上げたのがこの曲。しかし、親友でもあったフィッツェンハーゲンは、チャイコフスキーに断りもなく改訂し、改訂版が最初の楽譜として出版され、それが世界中に流布された。原典版も演奏される機会が増えており、その美しい主題とチェロの巧みな変奏はチェリストにとつて、かけがえのないレパートリーになっている。

■交響曲第5番

チャイコフスキー作品への好みは、聴き手によつてはつきり二分するのではないか。その原因は、彼のあまりに甘美な旋律に魅了される者とそれが鼻につくという者との差。いずれにしても彼は、メロディー・メーカーであることには間違いない。交響曲第4番から11年後につくられた第5交響曲は、モーツァルトの音楽への思慕が込めら

山崎伸子

©武藤章



れ、全曲を貫く「運命」の主題による循環形式をとっている。この作品の第2楽章でホルンが奏する美しくも哀愁に満ちた旋律もまさにチャイコフスキー節そのものだ。この曲を完成した頃、作曲家自身が「あのなかにはイヤなものがあります。大げさに飾つた色彩があります。人々が本能的に感じるこしらえ物的な不誠実さがあります」とフォン・メック夫人に手紙で告げている。つくつた本人がそこまで自分の作品をけなすこともめずらしい。初演時も批評家には不評ながら、一般聴衆は大喝采をおこした。

hitaruシリーズ

定期演奏会第25回

4月30日（木）19：00

指揮 円光寺雅彦

ピアノ 松田華音

■久石譲

坂の上の雲

オーケストラのための

スタジオリブリ映画の音楽でお馴染みの久石譲だが、NHKスペシャルドラマとして司馬遼太郎の長編小説『坂の上の雲』をドラマ化した音楽を彼は担当した。このドラマを観られた方も多いと思うが、明治という新しい時代への希望、若者たちの情熱、そして国家に対する苦悩や葛藤といった複雑な感情が、久石氏ならではの濃厚なストリングスと、時に悲痛な、時に力強い旋律で完璧に表現されている。札幌の壮大な演奏を聴きながら、ドラマの一場面を思い浮かべるのも一興だ。

■ラフマニノフ
ピアノ協奏曲第2番

ラフマニノフは、幼少期豊かな森と美しい湖のあるノヴゴロドで過ごし、そこで夜ごと教会の鐘の響きで感性を育くませたとする。彼の作品の中でも最も有名なこの曲は第1楽章の冒頭で、重い鐘の和音がピアノにより奏でられ、哀愁に満ちた濃厚な旋律がとうとうと流れ出す。純愛映画の背景にぴったりし日の青春のときめきが蘇ってくるようだ。

■チャイコフスキー
交響曲第6番「悲愴」

チャイコフスキーは、「私は自分の創作の最後を飾るような雄大な交響曲を作りたい欲望に駆られている」と第6番を書き始め、完成したときに「私の一生で一番良い作だ」と言い残した。確かに作曲者の最高傑作のひとつなのだが、終楽章はアダージョ・ラメントーンで悲しみを秘めながら曲は閉じられ「その標題は主観的なもので、私はこの曲を頭の中で作曲しながら、しばしば涙を流した」という謎めいたことを言っている。1978年、

旧ソ連の音楽学者オルロヴァ女史の論文でチャイコフスキーがホモセクシャルで、ある侯爵の甥と特別な関係にあったことが



©Ayako Yamamoto
松田 華音



©K.Miura
円光寺 雅彦

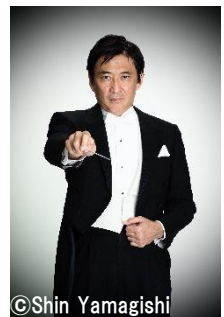
知れ、同性愛者を忌むべき犯罪とした帝政ロシアが秘密法廷による弾劾裁判で彼に死を求め、自殺を強要したと言うのだ。これが真実だとしたらこの曲は、完成直後に亡くなった作曲者の遺書なのかもしれない。

■ドヴォルジャーク
チェロ協奏曲

名曲コンサート
5月23日(土) 14:00
指揮 藤岡幸夫
チェロ 石川祐支

ドヴォルジャークは、50歳代になり国民音楽院の院長としてアメリカに招かれ、そこで交響曲第9番「新世界より」や弦楽四重奏曲「アメリカ」などの傑作を生んだ。この時期の最後に書かれたチェロ協奏曲は、黒人霊歌やアメリカ・インディアンの民謡を思わせるが、「新世界より」と同様、それらの音楽に刺激を受けながらロミア音楽を基底として哀愁をおびた叙情的な旋律で描かれている。ブラームスはこの曲を聴き「こんなチェロをもっと早く気付けていれば、私がとつとつ書いていただろうに！」と嘆息したと言う。今回は

藤岡 幸夫



©Shin Yamagishi

首席奏者石川祐支のチェロからノスタルジックな旋律が叙情豊かに紡ぎ出されることだろう。

■チャイコフスキー
交響曲第4番

第677回定期演奏会
5月30日(土) 17:00
31日(日) 13:00
指揮 エリアス・グランディ
コントラルト ゲルヒルト・ロンベルガー

この交響曲は決して標題作品ではないのだが、チャイコフスキーは、彼の有名なパトロンであったメック夫人に手紙の中で、この曲について詳細な説明をしている。第1楽章は、この交響曲全体の精髓、運命(理想旋律)である序奏にはじまり、それは幸福や夢を絶えず妨げる。第2楽章は、仕事に疲れ果てた人の悲哀の楽章で、第3楽章は、酒を飲んで酩酊した時のような気まぐれな唐草模様、第4楽章は、周囲の喜びに満ちた人々の中に入って生きる希望を持つとうとうもの。これらの内容は、この作品が書かれた直前の結婚生活の失敗や自殺未遂事件など作曲家の生々しい心情が反映されているようだ。

石川 祐支



©K.Seki

児童合唱 HBC少年少女合唱団
女声合唱 札幌合唱団

■マーラー
交響曲第3番

この曲は児童合唱や女声合唱を含む長大な作品のためか、第8番同様、コンサートで聴く機会に極めて少ない。10年以上前に尾高忠明・札幌の演奏で聴いているが、その時の手嶋真佐子の独唱とHBC少年少女合唱団の清澄な響きが記憶に残っている。この曲は第2番、第4番とともに「子供の魔法の角笛」にもとづく三部作の一つであるが、前作よりもさらにマーラー自身の交響曲に対する考え方が深化

し、交響的カンタータとも言えるような形態だ。マーラーがこの曲を書く直前に弟オットーがピストル自殺をしている。マーラーにとって弟の死は衝撃的であつただろう。交響曲第2番が死と復活に対する形而上的なものであつたのに対し、第3番は、あくまでマーラーの自然観を謳い上げていると言われるが、第1楽章では、弟の死の影響を「葬送行進曲」の前半に感じることが出来る。美しい旋律に溢れる第6楽章は、弦楽合奏やオーボエ、ホルンなどの独奏を交えながら、第5番のアダージェットをも予感させる。



©Rosa Frank

ゲルヒルト・ロンベルガー

(写真提供 札幌交響楽団)



©Y.Fujii

エリアス・グランディ



札幌専務理事
荒木太郎

キタラ1階14列21番。ここが定期会員としての上田さんの席でした。1階席最後列で、背面には反響板となる壁がある位置です。長く札幌を聞き、キタラの構造も熟知した上田さんが視覚的にも最も演奏を楽しめると考えた座席なのでしょう。6月の定期演奏会でお姿を見たのが最後となりました。

札幌ファンというより、楽団にとっては頼もしい応援団長でした。札幌くらぶ会長・事務局長として亡くなるまで楽団と楽団員を長年により支援していただきました。

同くらぶ主催によるフルオーケストラ演奏会を1999年から2011年までに9回開催したほか、会員の交流会に、楽団員を一人ずつ招いて演奏する機会を設けてくださいました。上田さんから頂戴した激励や温かいお言葉は、楽団員にとって今も大きな励みとなっています。

2003年から3期12年におたる市長在任中は、音楽振興にも力を注がれ、私たちに多くの活躍の機会を与えてくださいました。



2017年7月1日 Kitara ホワイエで

札幌くらぶ会長

上田文雄さんをしのんで

らう事業です。2004年に始まり今年で23年目。その「第1期生」は現在30歳代半ばになりました。今後、親子でファーストコンサートを体験するご家庭が増え、音楽を通じた会話が一層広がることでしょう。

上田さんがまかれた種がさらに大きく実を結ぶよう、私たちもより充実した演奏会をお届けしようと、気持ちを新たにしております。

逝去を受け、10月18、19日の定期演奏会で、両日とも冒頭に「G線上のアリア」を追悼演奏しました。指揮者トーマス・ダウズゴーに来日前に、追悼演奏の追加を要請したところ「素晴らしいアイデアだ」と快諾。3日間の練習のほか、公演当日のステージ練習でも楽団員に細部にわたって指示を出し、完成度を高めてくれました。



札幌コンサート
マスター
田島高宏

感謝
上田会長が亡くなられてもう5ヶ月が経とうとしています。市長、弁護士として多忙な日々を送られる傍ら、PMFや札幌くらぶの会長も歴任され、札幌および北海道の音楽文化を力強く支えて下さいました。特に2004年から始まり現在も続いている「Kitaraファーストコンサート」は、当時上田市長のお力添えがあったと伺っておりますが、札幌市内の全小学6年生約1万5000人に世界最高峰のホールで札幌とパイプオルガンの生の音を聴いてもらうという画期的なアイデアで、これまでに約25万人の生徒がクラシック音楽に接していることになりました。世界中で紛争が続き、人々がスマホ、AIにのめり込む昨今、幼少期から青年期という人生の繊細な転換期に、素晴らしい文化に触れる機会があることは何と尊いことでしょうか！もちろん私は札幌団員として常に会場が満員になってくれることを願っていますが、このコンサートに来てくれた子供たちがいつかクラシック音楽が必要になった時に、「あ、キタラ

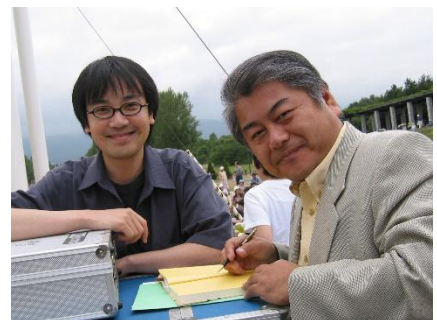
に行つてまた札幌を聴いてみよう」と思い出してもらえるよう、そんな札幌市民一人ひとりに寄り添うオーケストラであれたら、少しでも上田さんの遺志を継いでいくことになるかな、と思っております。上田会長、これまで本当にありがとうございました！引き続き良い音楽を目指して精進します！そして札幌くらぶの皆さま、これからも進化を続けるオーケストラをどうぞよろしくお願い致します。



札幌楽団長
事務局長
荒木均

札幌くらぶ創設期、上田文雄さんは事務局長として奔走され、私は楽員組合書記長として第1回札幌くらぶコンサートの企画をご一緒したのがご縁の始まりでした。以来、楽員組合の新年会には毎年のように出席してくださり、歌を披露して場を和ませて下さいました。「札幌をバックに歌う歌手は沢山いるけれど、札幌を前に歌うのは私がはじめてでしょう」という、あの洒落の効いた挨拶は今も忘れられません。

その後会長になられてからはさらにお付き合いが深まり、市



若かりし頃

長選の出陣式では弦楽四重奏で応援に駆けつけたことを懐かしく思い出します。また、札幌市の全小学生を「Kitara」に迎えたいという、私たち楽員の一見途方もない提案を「Kitaraファーストコンサート」として実現してくださったことは、上田さんの確かな行動力と文化への深い信念の象徴でした。

立場が変わっても、上田さんはいいつも札幌や楽員の私たちに公私を分けず近い距離で接してくれました。ステージから客席の上田さんの「あの席」を見るたび、そこに姿がないことが胸に迫ります。長年の温かい支えに心から感謝し、ご冥福をお祈り申し上げます。

二期会理事長
札幌くらぶ会員

町田隆敏

いの2つ目は昨年のごことです。私、一般社団法人北海道二期会の理事長の役を仰せつかりました。上田さんの後任です。

上田文雄さんからの
音楽へのいざない

私は、上田文雄市長の下で7年間秘書部長や教育長を務めさせていただきました。部下から言うのは恐れ多いのですが、上田市長とは仕事上でも結構気が合いました。また札幌の定期演奏会でもよくお目にかかり、その点でも気が合っていると思っております。

私は上田文雄さんから2回音楽への道をいざなっていただきました。

1つ目は一昨年秋のごことです。キタラでコンサートがあった後、妻と二人でキタラのレストランに行きました。奥のテーブルに上田さんご夫妻がいらして、食事の後のコーヒーのタイミングで上田さんご夫妻が我々のテーブルまでお出でになりました。

「座っていいかい。この後の時間、空いている？ 豊平館で札幌くらぶのコンサートがあるから一緒に行かないかい？」思わず「ぜひ」とお答えし、上田さん夫妻に付き添われて私ども夫婦も豊平館に行きまして一夜を過ごし、そのまま札幌くらぶにも入会。今に至ります。

上田さんからの音楽へのいざない

昨年秋、私のオフィスに道銀の堀八さんと二期会の三部先生がお出でになり、三部先生から二期会の理事長のお話がありました。私、正直に申し上げて音痴です。楽譜も読めません。三部先生に「私なんぞの門外漢が恐れ多すぎます。絶対無理です」と固辞申し上げました。日本国憲法を朗々と歌い上げてしまう上田さんとは雲泥の差、格が違います。上田さんも私が歌は歌えないことはご存じだったと思います。

しかし、三部先生は全然ひるまらず、「町田さん、理事長を引き受けてもらわないと困ります。これは上田さんのご遺言です」私は二の句をつげず恐れ多くもお引き受けしてしまいました。今は、このように楽しくやりのある役目を私に引き継いでくださった上田さんに感謝しつつ、私の役目は上田さんと同じく音楽を楽しむ、そしてその楽しさを多くの人に伝え広げることだと思いき進する所存です。

札幌くらぶ、そして北海道二期会に私をいざなっていたいただき、ありがとうございます。この場をお借りして感謝の言葉を述べさせていただきますと思います。

仙台フィルハーモニークラブ会長

長島榮一

安らかに眠りください

♪きくとオーケストラの音が
そばで鳴っているはずですよ

J OFC (日本プロオーケストラファンクラブ協議会)の会長として長くお世話になった札幌くらぶ会長の上田文雄さんの訃報を聞き、謹んで哀悼の意を表させていただきます。以前より御病氣と聞いておりましたが、昨年のJ OFC高崎大会でお会いできることを心より望んでおりました。ご本人も出席の意向で航空券も準備されていたそうです。

上田さんに初めてお会いしたのは、2001年ころ札幌において当会と札幌くらぶとの交流の時でした。当時は弁護士さんとして社会、人、音楽をよく知っている方だと深い感銘を受けました。その後、2003年に札幌市長になられたときは、テレビで万歳をしている姿に驚

きとともに、なるほどと羨に納得したことを思い出します。

その後の札幌市内へ二つ目の本格的な音楽ホールとなるE3Eをオープンさせるなどの活躍は、多くの音楽ファンの記憶に留められるものです。J OFCの会長として仙台にも2度ほど来ていただき、現市長の郡和子さんとも懇談していただきました。その際に仙台のホール事情について、やさしく問いかける姿勢には思いやりと奥深さを感じました。心よりのご冥福をお祈り申し上げます。

群響ファンズ会長

小野善平

高崎からの感謝

J OFC高崎総会2025の準備をしながら心待ちにしていた一つは、2019年に開演した高崎芸術劇場において、進境著しい群馬交響楽団の演奏を聴いていただいた時の驚きと喜びを満面に浮かべた上田会長の姿を見ることでした。

2003年、高崎で初めて開かれたJ OFC総会に際し、札幌市長でもあった上田会長に当時の高崎市長松浦幸雄氏との対談をお願いしたところ、快く引き受けて下さいました。対談の中ではキラと札幌の例も引合いに出して、群響の更なる発展のために音楽の良い新ホールの整備に向けた取り組みを松浦氏に要請していただきました。本拠地ホール建設に向けて先の見えない息の長い活動を続けていた私たち群響ファンズにとって、ありがたい働きかけでした。

2024年の山形総会に際しては、上田会長が体調不良のため私に代理としての挨拶依頼がありました。当初は私自身の考えを話そうと思いましたが、コロナ禍後の久々の総会でしたので上田会長の理念をあらためて皆で共有することが大切と考え、会長の言葉を代読出来るだけとお願ひしたところ了解いただけました。真の病状を知らぬが故に出来たお願いでしたが、会長との再会が永遠に叶わなくなった今、総会議事録に一言違わず掲載されたこの挨拶文は私たちJ OFC会員一人一人にあてた遺言とも言える貴重なものになりました。そこには会長自らの足跡を振り返ると共に、J OFCの行動理念が明快に語られています。今後のJ OFC活動に活かしていただければと願っています。

確固たる信念と卓越した識見に裏打ちされた心優しい故上田文雄会長に敬意を表しつつ

合掌



2015年2月7日 札幌くらぶ主催
「尾高忠明音楽監督に感謝する会」



2012年5月26日 札幌くらぶ交流会

大成功だった人生後半

私の誕生日である11月、最後の30日までビッシリ、働いて働いて働いて(笑)無事定年退職を迎えました。20年間支えてくださった楽員の皆様、事務局の皆様、そして札幌くらぶの皆様、札幌会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

私は2005年4月に札幌に入団しました。45才になる年だったので、ちょうど人生の後半に差し掛かっていたと言えるでしょう。

急に入団したというわけではなく、それまでに札幌とは数々の接点や人との出会いがありました。

函館東高校在学中には函館市民会館に札幌のコンサートは何

度か聴きに行きました。岩城宏之さんや一緒にいらしていた武満徹さん、そしてなんと小澤征爾さん！皆さんにサインももらいました。その頃から当時の首席トランペット奏者だった杉木峯夫先生のお宅までレッスンに通い始めました。札幌まで片道4時間の列車の旅が何の苦痛もなくただワクワクしてました。こうして札幌は私の憧れのオーケストラとなっていきました。

音大時代に杉木先生に呼んでいただいた、札幌にエキストラとして出演できたのは嬉しかったですね。セルジニ・ボドさん指揮でデユカスの「魔法使いの弟子」、岩城さんで「幻想交響曲」、

あとはチャイコフやドリーブのバレエ音楽など……。ただし私のほうは移調楽譜が読めなかったり、音が取れなかったり、いつクビになるかヒヤヒヤものでした。

そこから音大を卒業し、新日フィル、東京都響と続く人生の前半が始まります。

この人生の前半を私は修行と位置づけています。小澤征爾さんとの新日フィル、若杉弘さん、フルネさん、インバルさん、ベルティニさんとの都響、他にもサイトウ・キネンやスタジオ、古楽器オーケストラなど多種多様の仕事で修行を積みました。

地方で音楽祭にも携わっていて、昔からお世話になっていた宮澤敏夫さんとの出会いと会話が、私の人生の後半を決定づけました。「札幌でトランペットを探しているが若くて良いヤツいるか?」「若くはないけど私ではダメですか?」その後、話はトントン拍子に進み、憧れの札幌入団が実現しました。

修行を終えその成果を発揮する人生の後半は大成功だったと思います。

世界的にも一流のホールであるキタラでの定期、オペラハウスでもあるヒタルの柿落とし、だけではなく、地方の古いホールや体育館、どんな環境である

私と札幌トランペットセクション



歴代1



歴代2



歴代3



歴代4

ゲスト: エリック・ミヤシロさんを囲んで

うとも熱演を繰り広げる札幌は素晴らしい。思い出に残るコンサートをと一つと聞かれても決めかねるほど全部素晴らしいです。何より自然にあふれる札幌で仕事をし、生活することそのものが最高です。

ところで、私はレッスンで生徒さんに教える時、トランペットの奏法よりもメロディのフレーズ感を大切にしています。例えば均整のとれたフレーズは静かに始まりどこかに頂点(クライマックス)があり、そこから折り返してまた静かに収まってい

くというような。それを大きくしていったのが「アルプス交響曲」ですね。日の出と共に登山し始め、紆余曲折あって頂上に辿り着き神々しいクライマックスを築き、また嵐など困難に遭遇しながらも無事下山して日没を迎える。人生もこれに似ているでしょう。

しかし、私は「ボレロ」のよう

な人生を送りたいのです。つまり最後までクレッシエンドし続ける前向き人生ですね。退職の日にロビーコンサートで演奏した曲「私は満ち足りている」とは矛盾してはいますが(笑)。

昨年、「キタラファーストコンサート」でのインタビュコーナーで小学6年生に向けてもお話ししたのですが、私は「音楽に

11月24日(月・祝)小春日和の中、「札幌くらぶ」のメンバー3人で札幌を追いかけて遠軽に行った。これまでも苦小牧、滝川、砂川、小樽など札幌の地方公演を聴きに出かけたことは幾度かあったが、これほど遠いところへは初めてである。

「札幌遠軽公演2025」の会場は2022年8月に開館した

札幌を追いかけて遠軽へ

福田善亮

遠軽町芸術文化交流プラザであった。遠軽駅のすぐ隣、屋根のある通路でつながっていた。ホールの入口前には開場の30分前だというのに早くも数十人が並んでいた。

「メトロプラザ」と呼ばれているこのホールは客席610席(固定席606席+車椅子スペース4席)を有する音楽ホール

第15回日本プロオーケストラファンクラブ協議会

高崎総会に参加して

第15回日本プロオーケストラファンクラブ協議会(丁OF C)総会が、11月29日(土)「群響を応援する県民の会(群響ファンズ)」によって群馬県高崎市で開催された。

高崎総会は①幹事会②総会と記念講演③群響定期演奏会④全国交流会という内容で行われ、「札幌くらぶ」から3名参加し、

仙台フィルハーモニークラブ、山響ファンクラブ、名フィル・ファンクラブ、石川県立音楽堂楽友会、群響ファンズの6団体38名が参加した。この総会は群響創立80周年記念特別演奏会に合わせて企画され、マラーの交響曲第8番「千人の交響曲」が演奏された。

開会にあたり、故・上田文雄J OF C会長を偲んで黙祷が行われ、開会挨拶のなかで、群響ファンズの小野善平会長と仙台フィルハーモニークラブの長島榮一会長が追悼の言葉を述べた。新会長は、上田会長の残り任期を会長代理として小野善平氏が引継ぐことになった。会議では、各ファンクラブの活動報告と意見交換が行われ、次回の開催地は名古屋(名フィル・ファンクラ

ブ)に決まった。

記念講演は、群響専務理事の西和一氏が群響の運営についてお話された。群響の収入について、約半分が演奏収入(自主公演のチケット代)であることを聞き、多くの県民と市民が群響を聴きに行くことによって支えていることを知った。

総会のあと「高崎芸術劇場」へ移動し、『第613回群響定期演奏会(80周年記念特別演奏会)』を聴いた。最新の設備と音響を備えたこのホールは、「群馬音楽センター」が古くなり、新規建設運動によって建設され、2019年に開館した。故・上田会長は建設運動の成果であることを知り、この日を楽しみにされていた。このホールで群響の演奏をお聴きになれなかったことは残念でならない。

会場は、創立記念を祝う市民で満席であった。最初に、菅野祐悟氏に委嘱した『祝祭』が世界初演された。音楽の芽生えを表現したこの楽曲は、神秘的なサウンドで会場を満たした。

「千人の交響曲」は、群馬交響楽団と共演のオーケストラ・アンサンブル金沢、群響合唱団と少女合唱団、独唱者8名、それにバンドとオルガンが加わり、総勢460人が一つの舞台の上に並んだ。マエストロ飯森範親がタクトを振り下ろすとオルガンが鳴り響き、合唱が「Veni, veni talem」と高らかに叫ぶと大音響に包まれた。オーケストラはホルンの咆哮が際立ち、市民による大合唱は白熱し、会場が一つとなった。



群響創立80周年を祝ってホワイエにて乾杯する演奏者と聴衆
乾杯の挨拶はマエストロ飯森範親

奏会(80周年記念特別演奏会)を聴いた。最新の設備と音響を備えたこのホールは、「群馬音楽センター」が古くなり、新規建設運動によって建設され、2019年に開館した。故・上田会長は建設運動の成果であることを知り、この日を楽しみにされていた。このホールで群響の演奏をお聴きになれなかったことは残念でならない。

会場は、創立記念を祝う市民で満席であった。最初に、菅野祐悟氏に委嘱した『祝祭』が世界初演された。音楽の芽生えを表現したこの楽曲は、神秘的なサウンドで会場を満たした。

「千人の交響曲」は、群馬交響楽団と共演のオーケストラ・アンサンブル金沢、群響合唱団と少女合唱団、独唱者8名、それにバンドとオルガンが加わり、総勢460人が一つの舞台の上に並んだ。

マエストロ飯森範親がタクトを振り下ろすとオルガンが鳴り響き、合唱が「Veni, veni talem」と高らかに叫ぶと大音響に包まれた。オーケストラはホルンの咆哮が際立ち、市民による大合唱は白熱し、会場が一つとなった。

このスケールの大きな交響曲は1800人の聴衆と共に高みに達し、感動の渦に包まれた。長いカーテンコールのあと、出演者と聴衆がホワイエに集い、創立80周年を祝って杯を交わした。全国交流会は芸術劇場のレストランで行われ、群響メンバーによる木管五重奏が披露された。飯森氏と楽員も加わり、グラスを片手に音楽談義に花を咲かせ、とてもフレンドリーな交流会であった。

今回は、創立時の資料や映像、お話に接することが出来た。群響は陸軍の軍楽隊が母体であるが、戦後は平和のための音楽を普及したいと、地方初のオーケストラとして誕生し80周年を迎えた。多くの市民がパイオニアとしての誇りと設立の思いを大切に、今なお活気に溢れている。近年はアンサンブル金沢など地方オケと協力関係を築き、オペラや新たな試みに取り組んでいる。

地方オケはそれぞれ成り立ちが違う、地域との繋がりに特徴があって面白い。次回開催地の名古屋フィルハーモニー交響楽団も楽しみである。

札幌くらぶ
事務局長 高木誠一



ホルン独奏・土谷瞳

である。吹奏楽が盛んな遠軽町にとっては念願の音楽ホールであるという。

当日のプログラムには「遠軽町合併20周年記念」とも書かれていて、満を持しての札幌公演であることをうかがわせた。

札幌の演奏曲目はモーツァルトの「魔笛」序曲、ホルン協奏曲第4番、ベートーヴェンの「田園」。ホルン独奏は札幌副首席奏者の土谷瞳さん、のびやかなホルンの音色がホールに響いていた。それは土谷さんの一年間の海外研修の報告でもあった。

札幌の演奏はホルンの音響と相俟ってすばらしかった。特に弦楽器は各セクションが乾いた音でハッキリと聞こえて来た。

「田園」では第2楽章の木管楽器がひととき美しく響いていたし、第4楽章ではここぞとばかりピッコロが力強く鳴っていたのが嬉しかった。そのあとの第

5楽章では牧歌的雰囲気には癒されたの言うまでもない。この日の「田園」はいつも以上に安心して身を委ねることができた。

アンコールは「フィガロの結婚」序曲、モーツァルトとベートーヴェンをつつぷり、心穏やかに聴けたことが何よりであった。

メトロプラザのステージは広かった。札幌のメンバーは50人ほどであったが、ステージの左右と後ろにはかなりの余裕があるように見えた。大編成の吹奏楽団が乗ること、場合によってはコンクールなどを開催する事を想定して設計されているように思われた。

結局「札幌くらぶ」からは4人が聴きに行った。遠路はるばるやって来たこともあって、終演後すぐ帰路につくことにはならず、3時間後の旭川行き最終列車に乗ることに衆議一決、展望岩を眺めながら「繩のれん」を捜すことになった。

朝7時30分札幌駅発、深夜23時25分帰着。長い汽車旅ではあったが、適度な乗り換え、車窓を眺めながらの昼食、そして尽きることはないおしゃべり、楽しい日帰り小旅行であった。

会員/村山英朗

僕の愛聴盤⑧

アンサンブル・オペラの魅力満載

○歌劇「魔笛」K.620

(モーツァルト)

アンネリーゼ・

ローテンベルガー(S)

ペーター・シニリアー(T)

ヴァルター・ベリール(B)

ヴォルフガング・

サヴァリツシュ指揮

バイエルン州立歌劇場

管弦楽団他

(72年録音)



とで、カール・ベーム指揮/ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団盤(64年録音)を推したいのであるが、残念なことに肝心のパペーノ役のフィッシャー・ディスカウが巧すぎるがゆえに分別くさく、ミス・キャストとなっているのだ。パペーノにはヘルマン・プライのような天真爛漫さがほしいのである。

ぶる作品であった。支離滅裂な台本シツカネダ)にもかかわらず、これほど美しい音楽を添えられるとは、作曲者の才能にただただ頭が下がる思いである。多くの登場人物がアリアで聴きどころを誇示しているのに加え、三人の侍女と三人の少年の重唱の、天国的ともいえる響きがひとときわ精彩を放つ。まさにアンサンブル・オペラの極致といえるだろう。この境地に至ったのはR・シュトラウスただ一人であろうか。

掛け値なしの名曲であるがゆえに、おびただしい数の録音が僕たちの耳を魅了してきた。なかでもリコ・レッツェロー・テノール、フリッツ・ウンダーリッヒがタミーノのはまり役といえる歌唱を披露しているというこ

ドイツの老舗ブランド、シュタイフ社はデディ・ベアを始めとする動物のぬいぐるみ製造販売で日本人にもひろく親しまれている。そのような中、僕が注目するのは、歌劇「魔笛」(モーツァルト)の主人公パペーノを模した熊が重要な商品としてカタログを飾っていることである。複数のデザインが存在するが、その表情は実に愛らしい。メルヘンの雰囲気漂う舞台の上で時にははしやまわり、時には悲嘆の想いに沈むパペーノはドイツで最も人気のあるキャラクターのひとつなのであろう。

それはともかくとして、昔から歌劇「魔笛」はあらゆる音楽芸術の中でもっとも僕の心を揺さ

会員/村岡範男

秋はただでさえ寂しいのに、去年の秋はこのほか寂しかった。上田会長が亡くなられた。私が「札響くらぶ」に参加したのは上田さんが会長だったからなのにな。

札響の定期演奏会が2回公演になって定期会員になり、キタラのロビーをうるついていたら、ファンクラブのテーブルがあった。年齢制限はないと言うのでスタッフの仲間に入れていただいた。

私の10年を上田会長にあげたかった。私が10年生きているよりも会長にあと10年あった方がずっと有意義だったのに。

市長になられても、お忙しい中を「札響くらぶ」の会議に出席されると、雰囲気暖かく明るくなった。会長が市長になったので、市長室へお伺いすることも出来たし、キタラのロビーで市長ご夫妻と同じテーブルでコーヒーを飲んだりできた。今では貴重な思い出になった。

私が「札響くらぶ」に入会して3年ほど経ち、会長が

暖かい手だった…

60歳になられたとき、スタッフでお祝いのパーティを小さなレストランで開いた。皆がお祝いの言葉を贈ることになったので、私は自作の詩を朗読したら、下手な詩なのに喜んでくださった。

またある時、スタッフで「ビール片手に札響くらぶを語る会」という名目で集まることになった。上田会長もお出でになるので、会場をどこにするか、「大声で何をしゃべっても、人数が何人になっても、長時間になってもかまわないところ」…「井上さんちだ!」私は急いで新しい絨緞を買ってきた。集まったのは20人以上だったと思う。

最後にお会したのは2025年6月の札響定期演奏会の時だった。元氣になられたのだなと思ってお挨拶をしに近くまで行ったら人ごみの中を「お元気でしたか」と会長のほうから声をかけてくださり、握手をしてくださった。

暖かい手だった…涙

会員/井上明子

スタッフの声

▼コンサート会場で一番好きなのは、曲が始まる直前の、あの音が全くない時間。あれだけたくさんの人がいて、皆緊張した面持ちで音が解き放たれる瞬間を待つ時間。ライブは演奏者と観客の共同作業だと言われているが、再放送ができない、唯一無二の瞬間。それは曲が終わった直後の、あの余韻も同じではないか。同じ音のない瞬間であっても全く違って聞こえる無音の世界。会場でしか聞くことのできないこの貴重な無音を一人でも多くの人に体験してほしい。(山崎)

▼昨年は 松本城、松江城に登城し、すでに訪問済みの犬山、彦根、姫路と併せ現存天守の国宝五城を制覇しました。あとは現存十二天守の制覇。弘前と高知は訪問したので、残りの丸岡、備前松山、丸亀、松山、宇和島登城が目標。昨年来、政治社会面では分断とか外国人への中傷とか、悪い方向に向かっていくような気がします。音楽の世界は、それらとは今まで通り無縁の世界であって欲しいものです。(有田)